

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(7月28日～8月3日)

2018年8月6日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 最高検察庁は、キルギス側からのウセノフ元首相の身柄引き渡し要請を拒否したと発表(7月31日)
- 7月1日時点での債務残高の発表:約211億ドル(7月31日)
- ルカシェンコ大統領が病氣説を否定(8月1日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●アルメニア首相との電話会談

7月28日、ルカシェンコ大統領は、アルメニア側の要請に応じて同国パシニャン首相と電話会談を行なった。同会談では貿易・経済関係の発展につき協議し、双方は両国の貿易高が増加していることに満足の意を表明した。また、前日にサンクト・ペテルブルグで開催されたユーラシア経済同盟(EAEU)首相会合の成果を含むEAEUの発展に関する諸問題が検討された。

(7月28日付大統領サイト)

●病氣説を否定

8月1日、ルカシェンコ大統領は、自身が脳卒中で倒れ(て死亡し)たとの噂を一部メディアが報じたことにつき苦言を呈した。また、影武者がいるとの情報も一笑に付した。

(8月2日付 Naviny.by 通信)

●ヴィテプスク州の視察

8月3日、ルカシェンコ大統領はヴィテプスク州を訪問し、穀物の収穫の様子を視察した。同大統領は同州の「Turkovo」社を訪問し、国家の指示を踏まえた穀物売却の実施状況、家畜飼育分野への飼料の供給、先進技術製品の調達とその使用状況等につき報告を受けた。同大統領は、同州における家畜飼育分野の発展と必要な機材の供給につき強い関心を表明した。

(8月3日付大統領サイト)

【外政】

●キルギス元首相をめぐる動向

7月28日、キルギス外務省は、在キルギス・ベラルーシ大使館イヴァノフ臨時代理大使を召喚し、終身刑を宣告されているウセノフ元キルギス首相がベラルーシ国内に滞在しており、ベラルーシ政府関係者とともに活動しているとの報道を受けて、こうしたことは二国間の友好関係を傷つけるもので容認できないと抗議する内容の口上書を手交した。

7月31日、ベラルーシ最高検察庁は、7月7日付でキルギス側からのウセノフ元首相の身柄引き渡し要請を拒否したと発表した。その理由として、同要請は同人の政治的信条の追及を理由としたものである明らかな根拠が存在するとされている。キルギス側は、既に2度にわたり同人の身柄の引き渡し要請を行なっている。

(7月28日、31日付ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●企業に対する外貨での収益の一部を販売する義務の撤廃

7月31日、ルカシェンコ大統領は大統領令第301号に署名し、ベラルーシ企業に対する外貨での収益の一部を販売する義務が撤廃された。同義務の撤廃は、外貨の流通の自由化と企業活動の促進を目的としたものであり、輸出企業の競争力向上とベラルーシにおけるビジネス環境改善を促進することが期待されている。同大統

領令は8月3日から施行。
(7月31日付大統領サイト, 国営ベルタ通信)

●上半期の国家予算の執行状況

7月31日, 財務省は2018年上半期の国家予算の執行状況を発表。上半期の歳入は年間計画の53.2%にあたる244億ルーブルで, 歳出は年間計画の46.5%にあたる210億ルーブル。歳入と歳出の差額は34億ルーブルの黒字。
(7月31日付財務省サイト)

【対外経済】

●イラン産石油とベラルーシ産工業製品のバーター取引の可能性

7月31日付のイランの通信社「Mehr News Agency」によれば, オヴェイン駐ベラルーシ・イラン大使が各国駐在イラン大使とイランの「モスタザファン財団(被抑圧者財団)」幹部との会合の席上, イランとベラルーシが石油と工業製品のバーター取引で合意した旨述べた。

8月2日, ベラルーシ外務省及び産業省は, そのような合意はないとして否定。
(8月1日インターファクス・ザーパド通信, 2日付ベラパン通信)

【統計・その他】

●世界銀行によるベラルーシ経済の見通し

7月28日, 世界銀行は「ベラルーシ経済に関する総合調査報告」を発表し, ベラルーシ経済を取り巻く状況が中長期的に悪化するリスクは依然として極めて高い旨指摘。

現存するリスク

- ・対外債務償還のための歳出額が大きいこと。ベラルーシの対外債務の総額は, 国内総生産(GDP)比76.6%と極めて大きい。
- ・世界的な原料価格の変動やロシアからのエネルギー資源の輸入を巡る政治情勢の変化に対して脆弱であること。

勸告

- ・不採算国営企業や不良債権にかかる問題を体系的に解決すること。
- ・当局による価格統制や企業活動を制限する法規制を撤廃し, 民間部門の振興を図ること。
(7月28日付ベラパン通信)

●EFSDの年次報告

8月1日, ユーラシア安定化発展基金(EFSD)は年次報告を発表。ベラルーシ経済の効率を高めるためには, 国営企業の経営方式を一新する必要がある, そのためには不採算の原因となっている雇用を思い切って削減する措置が必要である旨指摘した。
(8月1日付ベラパン通信)

●7月1日時点での債務残高: 約211億ドル

7月31日, 財務省は本年7月1日時点での対外債務総額を発表。総額420億ルーブル(約211億ドル)で, 年初より2億720万ルーブル(または0.5%)減少。
・7月1日時点での対外債務は総額164億ドルで年初から2億8,820万ドルないし1.7%減少。

本年1月～6月の対外債務(単位: 億ドル)

内訳	新規借入	償還
ユーロ債	6.0000	8.0000
ロシア政府及び 同国の銀行	4.5700	1.9960
ユーラシア安定化 発展基金(EFSD)	-	1.7660
中国の銀行	0.9380	2.1340
国際復興開発銀行 (IBRD)	0.7330	0.3250
米国	-	0.0070
欧州復興開発銀行 (EBRD)及び 北欧投資銀行(NIB)	0.0260	0.0040
合計	12.2670	14.2320

・7月1日時点での国内債務は総額93億ルーブル(約47億ドル)で、年初から8,020万ルーブル(約47億ドル)増加。

本年1月～6月の国内債務

内訳	新規発行	償還
外貨建て国債 (単位:億ドル)	2.5550	1.9060
ルーブル建て国債 (単位:億ルーブル)	-	0.2310

(7月31日付財務省サイト)

(了)